

研究主題 高等学校芸術科（美術、工芸）教員の指導力の向上
～美術、工芸教員向け実技研修の充実～

I 団体の概要

本会は昭和49年(1974年)に設立されました。東京都の芸術科(美術、工芸)の教員が、日々の授業力を仲間と共に向上するために授業研究を行うことを目的とした研究団体です。美術、工芸に関わる多くの協賛企業(美術系大学、専門学校、絵具会社など)が賛助会員になってくださり、授業研究や情報交換を行う場となっています。

人々の価値観が多様化している近年、機械やAIでは代替できないアートやデザイン領域への需要が高まりつつあります。高等学校では、これまで主流であった絵具と筆で描くことに加えて、映像やイラストレーションなどのデジタル媒体でも表現する力を伸ばしていく必要があります。時代と共に、美術に関わる内容が大きく変化をしている時期にあると考えており、現在を生きる生徒にどのような力を身に付けさせるのかを、様々な角度から授業研究していく必要があります。



東京都高等学校
美術工芸研究会

II 研究部の目的

1. 新カリキュラムの観点別評価について、会員への周知も含め研究協議会を開催する。
2. 会員のニーズを汲み取り、研究協議会を開催する。また、外部講師を招いての講演会を開催し、会員の意識向上を図る。
3. 他の芸術教育研究団体や他校種とも研究を通して交流を深め、連携を図る。また、研究成果の発信を進める。

III 研究協議の方法

年度ごとに研究部員で相談し合い、興味がある分野を研究協議の対象としている。例えば、特色ある授業を参観し、授業者との対談により授業の工夫などについて具体的に授業者より紹介して頂く時間を設けている。また、参加者が実技体験できるような工夫をしたりして、素材研究ができるようにしている。

IV 実技研修部

先生方が参加しやすいように夏季休業日中に行なっています。協賛企業に御協力を頂きながら、専門的で高度な内容の実技研修を実施しました。今年度は、デジタル関係の研修を増やしています。

R7 研修内容	研修実施場所
① AI 活用講座 ② ヌードクロッキー、デッサン	阿佐ヶ谷美術門学校
③ シリコンリトグラフ ④ テンペラ画	創形美術学校
⑤ デジタルイラスト講座	武蔵野学芸専門学校
⑥ カード織 ⑦ 木彫技法	女子美術大学 相模原キャンパス

V 実技研修部の実践事例

IV－④創形美術学校では、古典技法であるテンペラ画を制作しました。細かい線を重ねながら、卵黄で顔料を定着させて描きます。また、金箔を画面に施したことで、より一層、色彩鮮やかな作品になりました。



IV－⑤デジタルイラスト講座では、iPadを使い、アイビスペイントでよく使用する描き方などについて、実践を通して丁寧に教えて頂きました。

IV－⑥カード織では、縦糸と横糸を通して布を織る伝統の機織りを体験しました。貴重な機織り機を使用し、パターンの美しい布が出来上がりました。



IV－⑦木彫技法では、のみと彫刻刀を使い、楠に彫刻しました。砥石で研ぐ方法も丁寧に御指導頂き、本格的な木彫を経験することができました。



<令和7年度連絡先>

団体名		東京都高等学校美術、工芸教育研究会	
代表者	所属	東京都立東久留米総合高等学校	
	職 氏名	校長 荒井 篤	
	連絡先	042-471-2510	
事務局	所属	東京都立東久留米総合高等学校	
	職 氏名	主任教諭 儀部 佳織	
	連絡先	042-471-2510	
団体ホームページ		URL	二次元コード
		会員のみに限定公開運用	